

問題 **専門科目** **[刑事政策]**

【設問】 以下の2問(問1と問2)について、両方とも解答せよ。

問1

以下の①～④について、それぞれ簡潔に説明せよ。

- ① 相対的応報刑論。
- ② 防犯環境設計(CPTED)。
- ③ 犯罪統計を見る(読む)際の留意点。
- ④ 割れ窓理論(Broken Windows Theory)。

問2

近代犯罪学における「古典学派」と「実証学派」、それぞれの基本的な考え方を説明し、両者の犯罪原因論および刑罰理論における相違点について論ぜよ。

採点ポイントおよびキーワード：

問1 (配点 60)

①・定義の正確さ

- ・ 刑罰正当化の基礎としての応報
- ・ 比例原則
- ・ 一般予防、特別予防
- ・ 絶対的応報刑論との比較
- ・ その他

②・定義の正確さ

- ・ 具体的な仕組みを紹介すること (例を挙げて紹介することも含む)
- ・ 環境・空間の設計・工夫に着目している
- ・ 犯罪抑止を目的とする考え方
- ・ 物理的環境 (建物・街路等) への介入
- ・ その他

③・暗数の存在

- ・ 数字背後の社会背景を踏まえる必要性
- ・ 単純な増減解釈への注意
- ・ 認知件数、検挙率、通報率・取締方針の影響などに言及すること
- ・ 乖離する理由に言及すること (法改正による影響など)
- ・ その他

④・定義の正確さ

- ・軽微な違反・無秩序への言及
- ・放置されることの意味
- ・犯罪予防理論に言及すること
- ・環境・秩序との関係に言及すること
- ・その他

問2 (配点 40)

- ・古典学派の説明：10点
- ・実証学派の説明：10点
- ・犯罪原因論の相違：10点
- ・刑罰理論の相違：10点

留意点：代表例、人物名への言及は加点可